

## 教育研究グループ「研究結果」報告書

報告日 令和2年3月17日

グループ名	先行学習研究会	フリガナ 代表者氏名	ヒガン 東 みどり																																																
学校名 (代表者)	板橋区立舟渡小学校	電話番号	03-3969-8405																																																
研究テーマ	教科書の徹底活用と先行学習																																																		
研究期間	平成31年4月1日 から 令和2年3月31日まで																																																		
研究結果 の概要 ※詳細は別 紙により 報告	<p><b>1 授業実践の内容</b></p> <p>研究テーマに沿って、以下の記すような研究授業を実践した。</p> <table border="0"> <thead> <tr> <th>【 日付</th> <th>学年教科 単元・教材名</th> <th>職名</th> <th>授業者名】</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月 8日</td> <td>3年算数「九九を見直そう」</td> <td>講師</td> <td>鏑木良夫</td> </tr> <tr> <td>4月24日</td> <td>6年社会「大和朝廷と国土統一」</td> <td>講師</td> <td>鏑木良夫</td> </tr> <tr> <td>5月29日</td> <td>6年国語「自然に学ぶ暮らし」</td> <td>教諭</td> <td>中島進介</td> </tr> <tr> <td>6月26日</td> <td>3年社会「板橋区の様子」</td> <td>主任教諭</td> <td>高木赳夫</td> </tr> <tr> <td>10月2日</td> <td>1年国語「ずうっと、ずっと、大すきだよ」</td> <td>教諭</td> <td>櫛淵悦子</td> </tr> <tr> <td>11月6日</td> <td>2年算数「九九をつくろう」</td> <td>主任教諭</td> <td>犬飼美穂</td> </tr> <tr> <td>12月4日</td> <td>5年図画工作「」見つけたことをはなしてみよう」</td> <td>教諭</td> <td>菅野智彦</td> </tr> <tr> <td>1月29日</td> <td>4年道徳「金色の魚」</td> <td>主任教諭</td> <td>堤 美里</td> </tr> <tr> <td>2月14日</td> <td>6年国語「水の東西（高校現代国語1年）」</td> <td>教諭</td> <td>中島進介</td> </tr> <tr> <td>2月15日</td> <td>6年算数「正負の数（中1数学）」</td> <td>主幹教諭</td> <td>菊池靖志</td> </tr> <tr> <td>2月15日</td> <td>6年理科「物質の状態変化（中1理科）」</td> <td>講師</td> <td>鏑木良夫</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>2 成果</b></p> <p>研究授業を通して、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科書を見られても困らなくなり教科書を使いこなせるようになった。</li> <li>② 教科書を活用しても学習意欲は低下せず、その逆に意欲的になった。</li> <li>② 低学力層の子どもも授業参加が可能となり、集団づくりにも寄与できる指導法との認識が広がった。</li> <li>③ 先行学習は、予習させることで考える枠組みが明確になり、特に低学力層の子どもはピント外れな考えをしなくてもすむことの理解が広まった。</li> <li>④問題解決的学習一辺倒からの脱却が図れた。子どもの多様な実態に応じた力量が高まった。</li> </ol>			【 日付	学年教科 単元・教材名	職名	授業者名】	4月 8日	3年算数「九九を見直そう」	講師	鏑木良夫	4月24日	6年社会「大和朝廷と国土統一」	講師	鏑木良夫	5月29日	6年国語「自然に学ぶ暮らし」	教諭	中島進介	6月26日	3年社会「板橋区の様子」	主任教諭	高木赳夫	10月2日	1年国語「ずうっと、ずっと、大すきだよ」	教諭	櫛淵悦子	11月6日	2年算数「九九をつくろう」	主任教諭	犬飼美穂	12月4日	5年図画工作「」見つけたことをはなしてみよう」	教諭	菅野智彦	1月29日	4年道徳「金色の魚」	主任教諭	堤 美里	2月14日	6年国語「水の東西（高校現代国語1年）」	教諭	中島進介	2月15日	6年算数「正負の数（中1数学）」	主幹教諭	菊池靖志	2月15日	6年理科「物質の状態変化（中1理科）」	講師	鏑木良夫
【 日付	学年教科 単元・教材名	職名	授業者名】																																																
4月 8日	3年算数「九九を見直そう」	講師	鏑木良夫																																																
4月24日	6年社会「大和朝廷と国土統一」	講師	鏑木良夫																																																
5月29日	6年国語「自然に学ぶ暮らし」	教諭	中島進介																																																
6月26日	3年社会「板橋区の様子」	主任教諭	高木赳夫																																																
10月2日	1年国語「ずうっと、ずっと、大すきだよ」	教諭	櫛淵悦子																																																
11月6日	2年算数「九九をつくろう」	主任教諭	犬飼美穂																																																
12月4日	5年図画工作「」見つけたことをはなしてみよう」	教諭	菅野智彦																																																
1月29日	4年道徳「金色の魚」	主任教諭	堤 美里																																																
2月14日	6年国語「水の東西（高校現代国語1年）」	教諭	中島進介																																																
2月15日	6年算数「正負の数（中1数学）」	主幹教諭	菊池靖志																																																
2月15日	6年理科「物質の状態変化（中1理科）」	講師	鏑木良夫																																																
その他 特記事項	<p>先行学習研究会というグループ名で申請し承認を得て実践に励んだ。この結果、授業研究の輪が広がり、徐々にではあるが、わかる授業をすることが学校をより良くし、勤務したくなる学校作りに寄与することの進歩が得られた。このことは、目には見えない職場の“学ぼうとする空気”への転換と軌を一にするものであり、代表としてうれしい変化だと思っている。</p>																																																		

グループ名 先行学習研究会  
代 表 東 みどり

## 1 テーマ解題

### (1) 教科書の徹底活用

教科書とは「主たる教材」である。しかし、教科書は使われない傾向が強い。それは、教科書を使うと答を先に知ってしまい、問題解決的学習が成立しないからだ。特に算数、理科ではその傾向が顕著である。さて、教科書を使わないと一般に

- ① 教科書を読まなくなり、最低限の読み取り能力も育たない。
- ② 低学力層の子どもにとって、気付きと練り上げを中心とする問題解決的学習についていけない。
- ③ 高学力層の子どもの中には、これから学ぶ知識を先取りしている子どももいる。このような子どもにとっては、授業はつまらないものに映る。

等の課題が生じる。

では、教科書を使って実践している教師はどうか。残念ながら、必ずしも教科書を縦横に使いこなしているとは言い難い。今一度、「教科書がある」を前提にしてその意義を見直し、教科書は使うが教科書に左右されない主体的な力量をより高める必要がある。

これが本テーマを掲げる理由である。

### (2) 先行学習

先行学習とは、前半は知識の習得、後半は知識を活用させることを通して、習得した知識を確実にさせる指導法の中で、具体的には、①予習、②理解度評定、③教師の補説、④理解確認、⑤活用課題、⑥自己評価及び2度目の理解確認という流れを持つ。

ここで「予習」と記したが、予習させる内容は本時の知識・技能目標である。したがって、先行学習は演繹的な指導法である。これは、いわゆる問題解決的学習とは一線を画す指導法である。この指導法は、予習させることでも分かるように教科書活用度の高い指導法である。なお、これまでの実践研究を通して、先行学習はわかる授業そのものであり、学力が高まる指導法と認識されている。

## 2 成果

本テーマを掲げ、教科書の徹底活用を先行学習で図った結果、

- ① 教科書を見られても困らなくなり、意図的計画的に教科書を使いこなせるようになった。
- ② 教科書を徹底活用しても、学習意欲は低下しないことが明確になり、その逆に意欲的になった。
- ② 低学力層の子どもでも授業参加が可能となり、集団づくりにも寄与できる指導法との認識が広がった。
- ③ 予習させることで考える枠組みが明確になり、特に低学力層の子どもはピンと外れな考えをしなくても澄むので安心して授業に臨める。

等の実感等を感じ取ることができた。これは、問題解決的学習一辺倒からの脱却が図れたことを示すと同時に、もう一つの指導法・先行学習が身についたことを意味し、子どもの多様な実態に応じて指導法を選べる力量が高まった。

## 3 具体的実践

### (1) 研究の経過

公開され協議になった授業研究会は以下の通りである。

4月 8日	3年算数「九九を見直そう」	講 師	鏑木良夫
4月24日	6年社会「大和朝廷と国土統一」	講 師	鏑木良夫
5月29日	6年国語「自然に学ぶ暮らし」	教 諭	中島進介
6月26日	3年社会「板橋区の様子」	主任教諭	高木昶夫

10月2日	1年国語「ずうっと、ずっと、大すきだよ」	教 諭	榎淵悦子
11月6日	2年算数「九九をつくろう」	主任教諭	犬飼美穂
12月4日	5年図画工作「見つけたことをはなしてみよう」	教 諭	菅野智彦
1月29日	4年道徳「金色の魚」	主任教諭	堤 美里
2月14日	6年国語「水の東西（高校現代国語1年）」	教 諭	中島進介
2月15日	6年算数「正負の数（中1数学）」	主幹教諭	菊池靖志
2月15日	6年理科「物質の状態変化（中1理科）」	講 師	鏑木良夫

## (2) 先行学習の指導案の実際

ここで、第1学年2組担任の榎淵悦子教諭の国語授業の指導案の具体を掲載しよう。実践日時は令和元年10月2日、単元名は「本はともだち本をえらんでよもう」で、教材名は「ずうっと、ずっと、大すきだよ（光村図書）」である。

なお、紙幅の関係で本時に関する展開部分を掲載する。

## 7 本時の指導（8/9時）

### (1) 目標

促音や拗音を正しく表記しないと意味合いが変わったり、意味の通る文章にならなかつたりすることを理解すること。

### (2) 習得させることと活用課題

#### ① 習得させること

促音や拗音を正しく表記しないと意味合いが変わったり、意味の通る文章にならなかつたりすること。

#### ② 活用課題

促音や拗音を含む言葉から、一文字変えて全く別の言葉や意味になるものを考える。

（※本時の展開部分の「4. 活用課題」を参照）

### (3) 予習内容

① 「ずうっと、ずっと、大すきだよ」を国語ノート10マスに全文視写をする。（夏休みの宿題）

② 3段落目の文章をなぞり書きする。（なぞり書きプリントは2回練習できるよう1文に対して1行空きのもの）

教師の働きかけと意図等, 【 】評価	予想される児童の反応と言動等
<p>1. 前時の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>促音や拗音が適切に出ている3段落目の文</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>ぼくたちは、いっしょに大きくなった。でも、エルフのほうが、ずっと早く大きくなったよ。</p> </div> <p>を共書きする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「この時間のめあては、みなさんが促音や拗音を正しく覚えることです。」と言い、本時の目標を捉えさせる。</li> <li>理解度評定(1回目)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 予備知識を意識する</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 予備知識の理解度を意識する</li> </ul> <p>2 あんしん …………… ○名</p> <p>1 しんばい …………… ○名</p>

## 2. 教師からの補説

- ここで出てくる「いっしょ」、「なった」、「ずっと」は、間違えやすい言葉だと伝える。
- 「いっしょ」は「いっしょ」、「なった」は「なった」、「ずっと」は「ずっと」というように、小さい字を普通の大きさに書くと、意味が分からない言葉になってくることを、具体的な板書を通して理解させる。
- 具体的な板書は以下の通り。  
「いっしょ」→「いっしょ」  
「なった」→「なった」  
「ずっと」→「ずっと」

## 3. 理解確認

- 「おこった」→「おこつた」、「じゅうい」→「じゅうい」では一文字変わるだけで意味が分からない言葉になることを再度確認する。

## 4. 活用課題

- ここで、問題が出されたら、次の3つの立場から自分の立場を選択して進めましょうと伝える。
  - ①自分で考える
  - ②友達と相談する
  - ③先生に聞く
- 以下に記す活用課題を提示する。

べつのみみになるように もじをいれたり とったり かえたり してみよう。

- ①ひょう      ②りゅう      ③じゅう(10)      ④まっくら      ⑤ねこ

- 正しい表記になるようノートに書くように指示する。
- 出題の手順は①～⑤までを提示するのではなく、順とする。つまり、問題を提示→①、②は見本を示す→③以降は自分のペースで取り組む→答えを確認という手順である。  
※進行状況によっては、1問で終わる可能性あり。
- 早く終わった児童には、辞書を引いて意味を確認させたり、答えが分からない児童にヒントを与える形で教えたりするよう指示する。

べつのみみになるように もじをいれたり とったり かえたり してみよう。

- ①ひょう→ひょう    ②りゅう→りゅう    ③じゅう(10)→じゅう    ④まっくら→まくら  
⑤ねこ→ねっこ

【知・技】促音や拗音等がある言葉について正しく理解

- 新たな情報を予備知識と組み合わせ  
て予備知識を強化していく

- 一文字違うだけで確かに意味が分からなくなるな。

授業スキル

【教科書の徹底活用】

- 多面的な情報を予備知識と組み合わせ  
て予備知識を強化していく

- 知識活用を通して、わかったつもりか  
ら脱出しようとする

- 自分一人でやってみよう。
- はじめから先生に聞いてしまおう。

- ①は「よ」を大きくすればいいのか。
- ④、⑤は見たことのある問題だな。
- ③はどうすれば違う言葉になるんだろう。

し、読んだり書いたりすることができる。(ノート) ・答えが出たら、活用課題で解いた問題全てをクラス全体で音読させる。	
<b>5. 自己評価</b> ・本文の3段落目を音読させるが、音読の手順は、間違えて読む→正しく読む、である。 ・理解度評定(2回目)	<b>●習得した知識の理解度を自覚する</b> 2 あんしん …………… ○名 1 しんばい …………… ○名

### (3) 感想

ここで、授業者の榎渕悦子教諭の授業後に感じたことを記す。

① 教育長が参観し、挨拶をいただいた。まさか45分間全て参観されるとは思ってもおらず驚いた。熱心に観てくれたこと、雰囲気の良い中での授業展開だったとお褒めの言葉をいただいたこと等、全てが自身の励みになった。

② 「ずうっと、ずっと大すきだよ」は、物語文として内容を読み進めていく授業スタイルがスタンダードである中、敢えて促音・拗音を意識させた授業内容とすることに少し不安はあった。児童の身になる授業展開ができるか自信がなかったからだ。ただ、予行授業を行い、その度によりよいやり方やアドバイスを頂き少しずつ自信がもてた。当日は、時間内におさめるよりも児童の反応を重視して授業展開していこうと思い、私自身は比較的穏やかな気持ちで授業公開ができた。

普段から共書きや辞書引きを行っていたので、研究授業当日も子ども達は難なく作業をこなしていた。授業内容は子ども達にとって、「楽しかった」という感想が圧倒的に多く、次いで「難しかった」「もっと活用課題をやりたかった」という意見も多かった。このことから、基礎基本を先に教えてしまい活用課題に取り組む授業展開があってもよいと感じる。また、小学校生活6年間の内で1番やる気のある1年生の内に、指導計画にはない基礎基本的なことを教えておくことは今後の学習意欲に繋がるのではないかと感じた。

頭の中でただ考えるだけで終わるのと、実践してみるのとでは得られるものが違うことを体感した。今回の研究授業は過去最高に自身が楽しく取り組み、児童の為にとのめり込めた感覚があった。基礎的な部分を先に押さえておき、クラス全体で確認しておいた上で活用課題に取り組む、という流れは子ども達にとっても指導者にとっても新鮮だった。活用課題に対する取り組み方も3パターンを示すことにより、どの子も満足のいく時間がもてたように思える。また、予習や先行学習をどんどん取り入れていくことは悪いことではないのだと身をもって感じた。

④ 日々授業を行っていく中で、子ども達が言葉の意味を知らないまま過ごしている現状をどうにかしたかった。そのためには曖昧にせず1年生の内から辞書を引く習慣を身につけていくとよいのでは、という思いがきっかけとなった。「言葉の意味を知る」には人に聞くのも1つの手ではあるが、自分で調べて知っていく方がより頭に残りやすいだろう。と思ったからだ。そんな思いを鎗木先生に伝えてみて良かった。何故なら、すぐさま国語辞典の購入についてアドバイスをいただき、すぐに手に入れられたからだ。研究授業が終わった後も舟渡小の低学年では辞書を使用した授業を行っている。

そして、指導書はあくまでも指導書に過ぎないということ。子ども実態に応じて授業展開を時には変えていく必要がある。と改めて思う。

授業者自身が楽しいと思える授業展開をすれば子ども達にもその気持ちが伝わるのだと感じた。

※ 参考文献

・ 鏑木良夫 (2015) 「もっとわかる授業を！」 (高陵社)